

◆地区会議(学術講演会 2018年10月～3月)

地域の持続性に 貢献するオンリーワン 研究の展開

平成30年度 日本学術会議中国・四国地区会議主催
学術講演会

近年、研究開発イノベーションの高度においては、今まさに世界で最も最先端かつ地盤固い研究開発体制の構築と社会実装の促進が求められています。
「地域の知の拠点」として地域社会の課題に有形無形に関わってきた本学は、単なる教育研究機関としての役割だけでなく、産官学で連携し、地域に根ざしたオンリーワン研究を展開することにより、新サービス、新事業を推進し、その成果を地域の人々の社会生活の向上に還元する使命を担っています。
本講演会では、鳥取大学における地域との連携研究の事例を中心に紹介し、地方大学として「地域の持続性に貢献できるオンリーワン研究とは何か」を議論します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

本講演会は **一般公開 学術申し込み不要 入場無料** です。

平成30年
11月17日
13:30~17:25

**とりぎん文化会館
(鳥取県立県民文化会館)
第2会議室**
鳥取県鳥取市尚徳町101番地5



お問い合わせ先
鳥取大学 研究推進部 研究推進課
TEL 0857-31-5609
ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp

主催:日本学術会議中国四国地区会議 共催:鳥取大学 後援:鳥取県

熊本地震の復興に貢献する 熊本大学の学術研究

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催
学術講演会

熊本は、平成28年4月に最大震度7を二度経験する地震が発生し、人的、物的ともに甚大な被害を受けました。
この震災からの復興にあたり、熊本大学は地域に根ざす国立大学として、これまで蓄積してきた教育研究資源を活用し、早期の熊本復興に貢献することを目的に、平成28年9月に「熊本復興支援プロジェクト」を立ち上げました。
本プロジェクトの中から、被災文化財のレスキュー事業、熊本城の石垣復旧事業、益城町復興まちづくり支援事業に、熊本の復興に果たした本学の学術的貢献を紹介いたします。

2019年
2月27日 水
14:00~16:25

**入場無料
申し込み不要
どなたでも参加
いただけます**

熊本大学 工学部百周年記念館
熊本市中央区黒髪3-39-1



お問い合わせ先 熊本大学 研究・産学連携部 研究推進課
TEL. 096-342-3146,3302

司会:藤田 謙彦 (熊本大学大学院人文科学研究科教授)

14:00-14:10	開会挨拶
武内 和彦 (日本学術会議副会長)	原田 啓志 (熊本大学学長)
14:10-16:15	講演
1. 水戸文庫細川家史料と地域史料 —文化財レスキュー事業の経緯から— 藤原 新雄 (熊本大学水戸文庫研究センター 教授)	
2. 調査地理を用いた石垣照合システムによる 熊本城復興支援 上原 誠 (熊本大学大学院工学研究科工学系 助教授)	
3. 益城町の復興まちづくりを支援する実践的研究 阿部 昌也 (熊本大学工学部建築・建設環境学センター 助教授)	
16:15-16:25	閉会挨拶
若原 啓夫 (九州・沖縄地区会議代表幹事、 九州大学大学院工学研究科 教授)	



報	4
総会	178

副会長報告
科学と社会に関する活動報告

2018年10月～2019年3月の活動

2019年4月24日

「政府・社会・国民との関係」担当副会長

渡辺美代子

内容	1. 課題別委員会等	2. 地方学術会議
	3. SDGsの取り組み	4. 広報

1

< 1. 課題別委員会等 >

第24期課題別委員会

従来からの継続性が重要な課題

- ・ 防災減災学術連携委員会
- ・ 科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会
- ・ 医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会（2018/3終了）
- ・ フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
- ・ 大学教育の分野別質保証委員会

審議依頼

- ・ 人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会（前回報告）
- ・ 国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会（2018/12終了）
- ・ 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会

過去に取り組んだ課題

- ・ オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会

新たに取り組んでいる課題

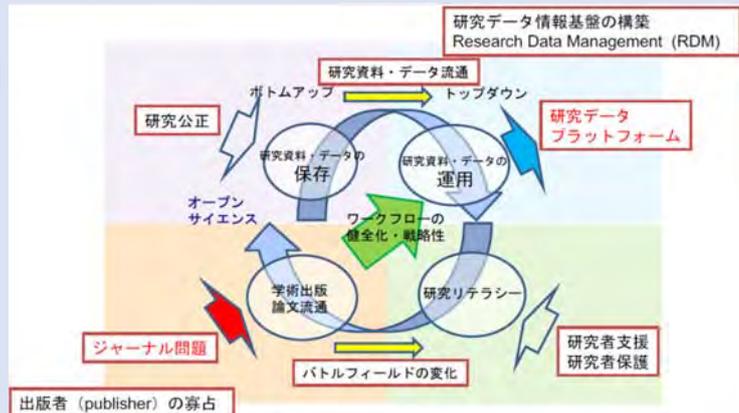
- ・ 自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会（前回報告）
- ・ 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会（前回報告）
- ・ 認知障害に関する包括的検討委員会（前回報告）

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 2018年11月設置

委員専門 情報学（喜連川：委員長, 相澤, 安達, 村山）
 システム工学（引原） 歴史学（久留島）
 経済学（溝端） 医学（永井）
 バイオインフォマティクス（高木） 農学（澁澤）
 地質学（木村） 学術政策（林）
 総合工学（渡辺）

審議の方向

- ◆データ駆動型社会に向けて
- ◆研究データの健全な相互利用と発展を目指す
 - ・分野の特性を考慮（標本/データ）
 - ・Close/Share/Open
 - ・民間データの活用
 - ・競争と共存の必要性
 - ・日本の特徴「信頼」



今後の予定

月2回の審議⇒2019/6にとりまとめ（提言）

科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会 2018年11月設置

委員専門 体育・スポーツ学（川上, 田原, 来田） アスリート（田嶋, 山口）
 医学（神尾, 福林） 心理学（高瀬）
 スポーツデータ科学（酒折） 情報学（喜連川, 美濃）
 ロボティクス（萩田） 障がい者スポーツ（遠藤）
 歴史学（井野瀬） 人類学（山極）
 総合工学（渡辺：委員長）

スポーツ庁からの審議依頼内容

- ・日常生活におけるスポーツと社会との関係に関する科学的知見の整理
- ・スポーツ界と科学との関係の在り方の検討
- ・科学技術の進展等に伴うスポーツの価値変化に関する科学的知見の整理
- ・EBPM（Evidence-Based Policy Making）推進のための体制整備の提案

審議の方向

- 1) スポーツ界を社会の縮図と考える
 - 既存の社会的傾向や課題と関連させて検討
 - 例) 科学を社会に開く際の問題（閉じた系と開いた系の科学）、女性やLGBT
- 2) 社会からみてスポーツを変化させる
 - スポーツ界やスポーツ自体の価値を社会に見合ったものへと変化させるためのエビデンスの明示とその論理を検討
 - 例) 暴力の問題

科学と社会委員会 政府・産業界連携分科会

提言「産学共創の視点から見た大学のあり方」

—2025年までに達成する知識集約型社会— 2018年11月28日

- (1) ビジョン牽引型ビジネスへの投資と連動した産学連携の推進
- (2) 各地域の大学を拠点とした情報・データの蓄積と活用
- (3) 若手の多様な経験の促進を中心とした国際展開と国際プラットフォームの構築
- (4) 我が国の人文・社会科学を強みにした未来社会戦略と科学の新展開



経団連・学術会議共同シンポジウム 2019年3月7日 経団連会館にて
 「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」 130人参加
 大学（山極寿一（京都大学），小林傳司（大阪大学），岡（山口大学），田中優子（法政大学））
 企業（五十嵐仁一（経団連），小林いずみ（経済同友会）） が登壇

- ◆日本の人口増加前後の江戸時代と明治初期から学ぶことは多
「黒船」、「結社」、「出島」が今後の参考
- ◆経営者間で問題共有されても担当者、省庁との共有難
- ◆地方で産学が活性化、若者に責任ある活躍推進する必要性



学術フォーラム（予定） 2019年5月22日 学術会議講堂にて 経団連と共催
 「産学共創の視点から考える人材育成」
 大学（モンテ・カセム（至善館学長），平田オリザ（大阪大学特任教授））
 企業（梶原ゆみ子（富士通、CSTI議員），白木夏子（HASUNA代表取締役））等が登壇

平成30年 日本学術会議 in 京都

伝統文化と科学・学術の新たな出会い

平成30年 **12月22日** (土) 13:00-20:00

会場：京都府立京都学・歴彩館

(第二部・第三部は隣接する京都府立大学で実施いたします)



350人
参加

第一部 シンポジウム

- 対談1 「伝統芸術と科学」
山極 寿一 対 土佐 尚子（京都大学特定教授）
- 対談2 「いけばな～日本の知恵の世界発信～」
池坊 専好（華道家元池坊 次期家元）対 渡辺 美代子
- 講演 「アジア化する世界～21世紀の潮流～」
中津 良平（京都大学特命教授）

第二部 分科会

- 1. 京都市民にとっての科学・学術
- 2. 伝統文化と科学・技術・リベラルアーツ
- 3. 先端産業と科学・学術
- 4. 若手研究者は科学・学術について何を考えているのか

第三部 産学良縁創出企画

～あなたの得意は誰かの不得意。
GIVE & TAKEでさくっと協働～

京都の中学生、元知事、企業経営者、和菓子職人、若手アカデミーが京都の伝統文化を議論6

Society 5.0で北海道が変わる (AI・IoT・RT技術の地方深化)

日時 2019年 2月16日(土)
13:30~16:45

150人
参加

会場 ANAクラウンプラザホテル札幌

第一部 学術シンポジウム 「多様性・共生の地域社会を目指して」

- 講演 1 「北海道が目指す動物と人の共生とは」 坪田敏男 (北海道大学教授)
- 講演 2 「気候変動・人口減少と北海道の生態系の保全」 森本淳子 (北海道大学准教授)
- 講演 3 「北海道から挑戦する未来の学びの場のデザイン」 美馬のゆり (公立はこだて未来大学教授)
- 講演 4 「女性の社会参加と北海道の今後」 今井晋 (北海道大学教授)

第二部 科学者との懇談会「日本学術会議及び北海道地区会議の活動について」

山極会長、山脇良雄文部科学審議官、北海道地区会議の会員・連携会員33名の懇談会

第三部 学術講演会「Society5.0で北海道が変わる (AI・IoT・RT技術の地方深化)」

- 講演 1 「Society5.0時代における科学技術・イノベーション政策」 山脇良雄 (文部科学審議官)
- 講演 2 「ロボット技術とその智能化—現状と社会実装加速に向けての将来展望—」 浅間一 (学術会議第三部会員)
- 講演 3 「農業におけるSociety5.0に実現に向けて」 野口 伸 (日本学術会議連携会員)

社会とのコミュニケーションと社会への学術の発信に加え、北海道の会員・連携会員の連携の強化を図り市民と議論、キーワードは「共生」と「多様性」

学術会議HPにSDGsと提言等との関係を掲載

1. 提言／報告チェックシートにSDGsとの関係、英文タイトル、英文要旨を追加
2. 第24期提言5件と報告1件を日本語HPに掲載、提言3件を英語HPに掲載 (2019年4月に新たに掲載)



第5期科学技術基本計画/学術会議提言とSDGsの相関 総合工学委員会 小山田幹事中心

分析方法

テキストマイニング
(MIMAサーチ)

SDGs定義文

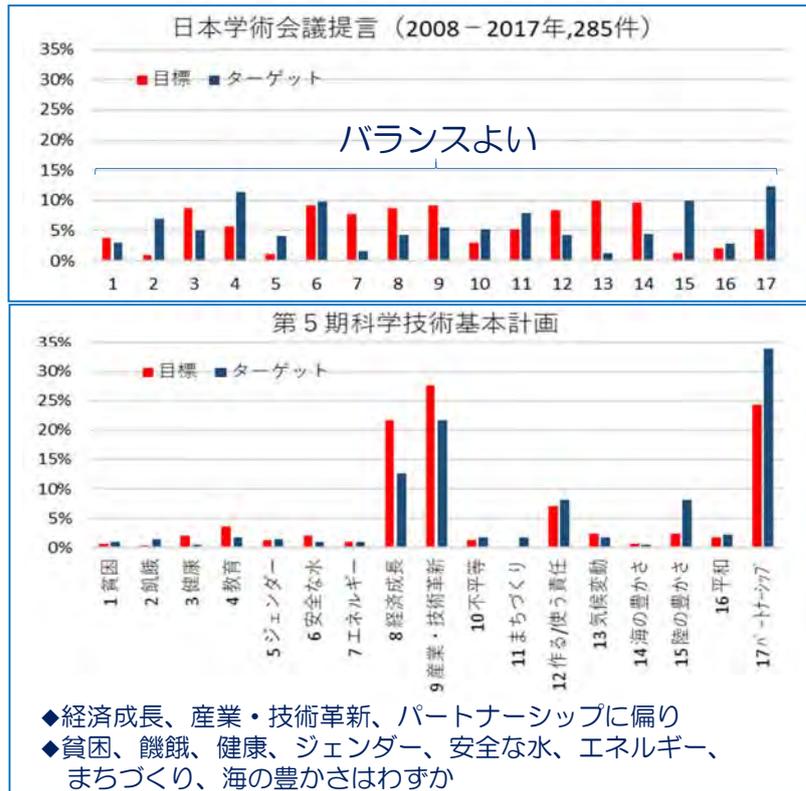
17目標、169ターゲット
に基づき

第5期科学技術基本計画

全文(全100項目)を分類、
各項目の文書類似度第3位
までの目標に振り分け

学術会議提言

2008年度~2017年度
発表提言 285件を対象
各提言の全文書、文書
類似度第3位までの目標に
振り分け



9

広報

第24期学術会議に関する新聞記事のテーマ・件数



- ◆当初1年(45件)よりこの半年(53件)が新聞記事が多かった
- ◆最多はILC(19件)
- ◆委員会や提言への反響が増

今後の課題 <科学と社会委員会・メディア懇談分科会、広報委員会>

1. SNS・WEB発信、TV報道、新聞発表の有機的活用
2. HPの改善
外部評価委員会の指摘に対応
学術会議の発信があり方(優先順位)を検討
専門委員を追加検討
3. 動画導入の検討



今後

- ◆上に移動
- ◆すべてのシンポジウムと提言を配信

10

報	5
総会	178

日本学術会議 国際活動報告



第178回総会 2019年4月24日
第24期 国際活動担当副会長 武内 和彦

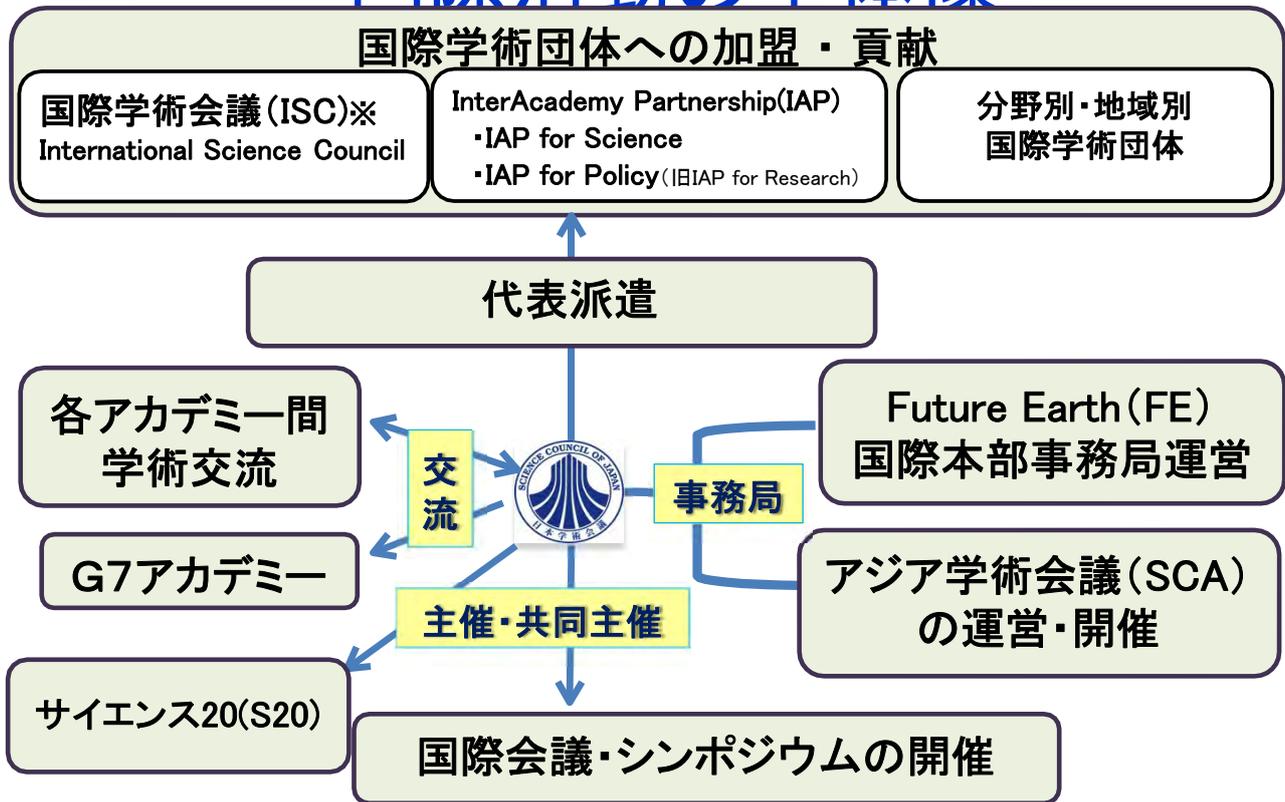


第24期の活動方針

- 個別分野の国際学術交流を基盤としつつ、分野横断的な国際活動の展開とネットワークの構築
 - 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性を発揮
- SDGsの推進を始め、グローバルな課題解決に向けた加入国際学術団体や多様な主体との協働
 - 2018年7月に設立された国際学術会議(ISC)への積極的参画
 - IAP等加入国際学術団体に対するより一層の貢献
 - Future Earthの国際的展開
- アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - アジア学術会議の運営・開催等



国際活動の全体像



※国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 及び国際社会科学評議会 (International Social Science Council: ISSC) の統合により、2018年7月発足。

3

①サイエンス20 Japan 2019の開催

- ・テーマ: 「海洋生態系への脅威と海洋環境の保全
—特に気候変動及び海洋プラスチックごみについて—」

(Threats to Coastal and Marine Ecosystems, and Conservation of the Ocean Environment—with Special Attention to Climate Change and Marine Plastic Waste)

- ・概要: 3月6日に開かれた会議では気候変動及び海洋プラスチックごみに焦点をあて、海洋環境の保全について議論し、その成果を声明として取りまとめた。

- ・参加者 約100名



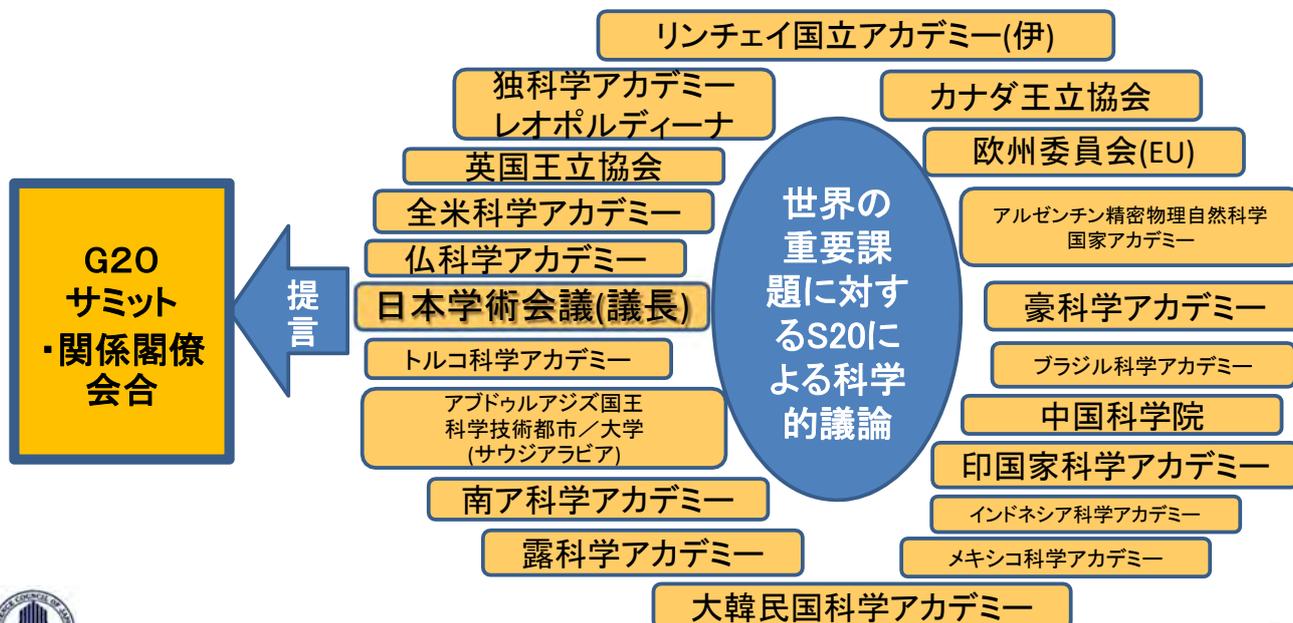
サイエンス20参加者集合写真
25

4



・サイエンス20とは

- － サイエンス20は、G20各国の科学アカデミーによる会議であり、G20サミット及び関係閣僚会合に対して共同で科学的な提言を行う
- － 第3回(2019年)は、日本学術会議が議長として開催



5

・サイエンス20 共同声明 6つの提言

- 1) 専門家による科学的根拠に基づく助言の必要性
- 2) 海洋生態系へのストレス要因の除去を目的とした行動の強化
- 3) 科学的根拠に基づく目標設定
都市や地域レベルでの循環経済・社会の実現
- 4) 研究船、観測・監視技術等の調査・研究基盤の強化
- 5) 世界中の科学者がアクセス可能なデータの保管・管理システムの確立
- 6) 強固な国際協力の下での調査・研究活動と情報共有の推進



26

6